



### 志布志の街から福を呼ぶ！

2月3日、志布志商店街で節分の豆まきやミッションゲームなどのイベントが行われました。  
節分の豆まきは、大慈寺で行われ、商店街に今年度オープンした店主が福男として、豆まきを行いました。また、ミッションゲームでは「商店街のびろうの木は何本？」「メガ盛りの完食」など、実際に歩いたり味わったりする内容で参加者を楽しませました。

### 老人クラブからタオルの寄贈

2月5日、市老人クラブ志布志支所の木幡一夫事務局長と川畑博副会長が教育長室を訪れ、タオル287枚を寄贈しました。  
この活動は、学校の美化活動などに利用してほしいと、同クラブの会員にタオルの提供を呼びかけ毎年行っています。  
このタオルは教育委員会を通じて志布志地域の小・中学校に配られます。



### 「大クス」の絵画を寄贈

曾於市末吉町在住の牧田かおりさんから、安楽山宮神社の「大クス」を画題にした絵画が寄贈されました。  
この絵画は、曾於市で開催された吉井淳二記念展において第33回南日本新聞社賞を受賞した作品です。牧田さんは、安楽山宮神社の大クスを画題にこれまで4回出展。第35回記念展では、大賞である吉井淳二賞を受賞されました。  
この絵画は安楽地区公民館2階の大会議室に展示されています。

### 志布志妖怪ものがたりを寄贈

2月8日、本村多可子さんが教育長室を訪れ、自費出版された「志布志妖怪ものがたり」を寄贈されました。  
本村多可子さんは、志布志淑女会の会長として、戦争体験や昔のわらべ歌などを後世に伝えていく活動を行っています。今回は、志布志にいたとされる「妖怪」を挿絵を使ってわかりやすく紹介しています。この本は、市内の小・中学校の図書室や市立図書館で読むことができます。



### 安楽山宮神社・安楽神社春祭り

2月9日に安楽山宮神社で、10日に安楽神社で春祭りが行われ、県の無形民俗文化財に指定されている正月踊りなどが奉納されました。  
安楽神社では「田打ち」や「牛使い」なども奉納されました。  
また、男性6人がカギ状の木を引き合い豊作・豊漁を占う「カギヒキ」も行われ寒風の中、上半身裸になりカギを引く勇壮な姿に観客からは大きな拍手が送られていました。



### マテバシイを植樹しました

1月19日、市みどり推進協議会と潤ヶ野緑の少年団が共同で緑化推進事業植樹祭を開催し、志布志町安楽の緑ヶ浜団地前にマテバシイを11本植栽しました。  
この事業は緑豊かな美しい環境を作ることを目的に、みどりの募金を活用して実施し、当日は11人が参加しました。

### 雪国の暮らしや文化を体験しました

1月25日～28日の期間、本市の研修生10名が山形県酒田市に派遣され、地元の小学5・6年生と交流しました。  
研修では、除雪やスキー体験を通して、鹿児島ではできない雪国の暮らしや文化を体験しました。研修に参加した児童は、「生まれて初めてのスキーは、思っていたより何倍も難しかったけれど、風を切って滑れたときは気持ち良かった」「鹿児島と山形の違いを知ることができて、とても良かった」と話しました。

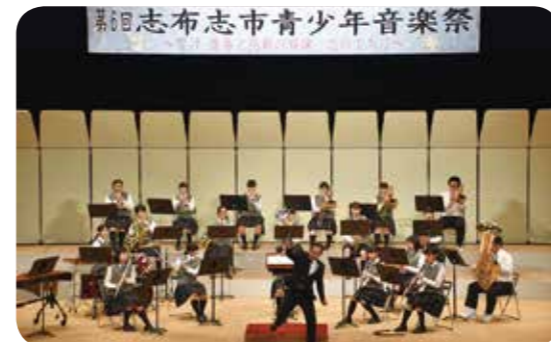


### 節分祭に向けて清掃活動を行いました

2月1日、安楽校区の老人クラブ千寿会（庄司義治会長）のメンバー28人が地域貢献活動として、安楽山宮神社の境内やその周辺道路の清掃活動を行いました。  
2月3日に行われた節分祭の参加者に気持ちよく催しを楽しんでもらうために今年初めて実施したもので、当日は早朝から約1時間ほど清掃活動を行いました。

### 県内一早い春祭り「ダゴ祭り」

2月3日、田之浦山宮神社で県内で最も早い春祭りといわれる県無形民俗文化財「ダゴ祭り」が開催されました。  
神事に引き続き、地元小学生や保存会の皆さんによる神舞が奉納されました。その後、食べると1年間無病息災でいられるというダゴ花が見物客の前に運び出されると、競い合うように手を伸ばし、嬉しそうに持ち帰りました。



### 青少年音楽祭が開催されました

2月3日、やっちくふれあいセンターで第6回志布志市青少年音楽祭が開催されました。  
市内の小・中学生による演奏や合唱、高校生による吹奏楽などが披露されたほか、合同演奏では、特別出演として泰野小学校1・2年生が参加し、元気な歌声を届けました。  
音楽祭の始まりは、市内で活動するErica Erika（エリカ エリカ）さんがバイオリン演奏を披露しました。